芸術色彩研究会　トークイベント

「色彩と質感の地理學
日本と画材をめぐって・京都篇」

同日開催　日本画材工業会 主催　画材相談会

日時：11月17日（土）トーク　…13時－15時
画材相談会…15時－17時30分

会場：京都造形芸術大学　ギャルリーオーブ　吹き抜け

共催　伝統文化イノベーション研究センター（KYOTOT5）・日本画材工業会
企画　芸術色彩研究会
協力　京都技法材研究会

■芸術色彩研究会（芸色研）とは

中村ケンゴ、三木学、岩泉慧による研究会です。芸色研では、芸術表現における色彩の研究を、狭義の色彩學に留まらず、言語學や人類學、工學、認知科學など様々なアプローチから行います。そして、色彩から芸術表現の奥にある感覚や認知、感性を読み解き、実践的な創作や批評に活かすことを目指します。　ここで指す色彩は、顔料や染料、あるいはコンピュータなどの色材や画材だけではなく、脳における色彩情報處理、また素材を把握し、質感をもたらす要素としての色彩、あるいは氣候や照明環境など、認知と感性に大きな影響を及ぼす色彩環境を含むものです。それは芸術史を、環境と感覚の相互作用の観点から読み直すことにもなるでしょう。

■トーク概要

絵画は色彩だけではなく、質感も視覚心理に働きかける重要な要素です。特に日本は、西洋圏に比べて質感に關する感性が豊かな文化だと言われています。例えば日本画で使われている顔料は、もともと鑛物が原料になっています。そのため「岩絵具」と言われており、光輝性を持った独特な質感があります。こうした岩絵具をはじめ、和紙などの日本で使われてきた画材の魅力とは何でしょうか？　そして現代の芸術においてどのような價値があるのでしょうか？

これまでの美術大學や国内の美術業界における議論では、その特性について国際的に價値を説明するのは困難です。一方で、ニュートン、ゲーテから始まる近代の色彩理論だけでも、各地域で異なる色彩感覚や質感などについてすべてを論じることはできません。わたしたちは、環境、知覚、認知、言語の絶え間ないフィードバックによって文化圏特有の「色彩感覚」「質感感覚」を醸成しており、画材にもそれは息づいています。今回のトークイベントでは、昨年行われた議論を踏まえつつ、文化を国境線で区切ることなく、地理的、風土的な意味での日本の画材に潜む色彩・質感感覚について考えます。また、美術の問題だけにとどまらず、近年の認知科學の発展に伴う自動車、化粧品、ファッションまでを射程に入れた色彩・質感研究の現在にも迫ります。素材と感性、両面からの普遍的な議論を通して、日本の画材を、例えば「日本画」から解放してこそ、その魅力を世界に向けて傳えることができるのではないでしょうか。

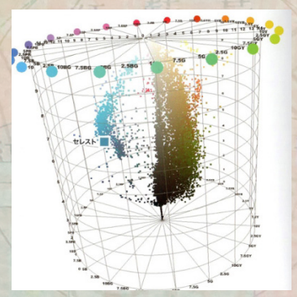
■登壇者

中村 ケンゴ
美術家。現代社会を表象するモチーフから、美術史上のさまざまなイメージまでをも用いたユニークな絵画を制作。国内外の展覧会、アートフェアに多数出品。展覧会、シンポジウムなど、アートプロジェクトの企画運營にもあたる。共編著『20世紀末・日本の美術－それぞれの作家の視点から』（アートダイバー）。多摩美術大學大學院日本画專攻修了。

三木学
文筆家、編集者、色彩研究者、ソフトウェアプランナー他。独自のイメージ研究を基にした編集、執筆、ソフト開発、ライセンス・マネジメント等を行っている。共編著に『フランスの色景』、『大大阪モダン建築』、ヤノベケンジ『ＵＬＴＲＡ』（すべて青幻舎）などがある。

岩泉 慧
美術家、京都造形芸術大学講師、画材ラボＰＩＧＭＥＮＴ所長。２０１５年に絵画表現における　使用方法の論文で博士號を取得。ＰＩＧＭＥＮＴや京都造形芸術大学にて基点とした様々な画材の研究、指導を行いながら、物質存在に關する作品により作家としても活動を続けている。

”Emoticon”（部分）



『フランスの色景』（p.156）より

MONOLITH（部分）

京都造形芸術大学

606 8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
Tell 075-791-9122

その他アクセス方法

Access

■ JR「京都駅」より
市バス５系統/岩倉行「上終町京都造形芸大前」下車（所要時間約 50 分）
叡山電車（京阪出町柳駅乗りかえ）茶山駅下車、徒歩約 10 分
※本学には駐車場がありません。車・オートバイ・自転車での來学はご遠慮ください。